

私のすすめるこの1冊

土屋 雄一郎 (社会科学科 准教授)

『六ヶ所村の記録(上)(下) 核燃料サイクル基地の素顔』

鎌田 慧 著

詩人であり劇作家でもあった寺山修司は、「書を捨てよ、町へ出よう」という言葉を残したが、この冬、「書を持ってフィールドに出る」ことにした。行き先は、本州の最北端に位置する下北半島である。

福島原発事故から5年が経つなか、原子力の利用をめぐる議論が続けられている。その立場は、「反原発」から「再稼働」までさまざまである。しかしどのような選択をしようとも、わたしたちは、半世紀にわたって原子力の火を灯し「豊かな生活」を送ってきたツケを払わなければならない。にもかかわらず、現在、国内に高レベル放射性廃棄物の最終処分場はない。彷徨える「核のごみ」にどう向き合えばよいのか。青森県六ヶ所村を訪ねるために、本書を手にとった。

青い森鉄道の野辺地駅から日に数本の路線バスに乗る。下北半島の太平洋側に長く伸びた村、千樽、戸鎖、室ノ久保といった集落を車窓におさめ、開発主義の「夢」の下敷きとなった弥栄平、大石平といったかつての集落跡をたどりながら村役場のある尾駸で下車した。日本原燃の企業城下町として生きることを選択した村の風景は、東北の寒村というイメージはなくどこか無機質な近未来都市を彷彿させる。

本書は、わが国で群を抜くルポルタージュ作家の一人である鎌田慧が、バラ色の開発と喧伝された巨大開発から核のごみ捨て場への「暗転」に翻弄され続けた六ヶ所村の20年を記録した作品である。永いあいだ広大な原

野として打ち捨てられていた「開拓せられざる地」に入植開墾した、明治半ばからは農家の二男、三男らによって、戦後は満州帰りの農民らによって開拓された土地が、1969年に発表された「むつ小川原開発」計画によって奪われ、1984年電力事業連合会の要請によって使用済み核燃料の再処理工場の建設をはじめとする日本の核センターの礎とされるまでの歩みを刻銘に描いている。

巨大開発の美名の下に開拓地を追われ、その土地での生活を奪われた住民のライフストーリーや地域社会の葛藤と、膨大な資料の緻密な分析と関係者へのインタビューによって明らかにされていく政財官の隠された欲望とを幾重にも重ね合わせながら問題の所在を浮き彫りにしていく。その迫力と魅力は、ノンフィクション作家の広瀬隆がいう彼の突撃精神にあるだけではない。丁寧で緻密なデータ収集と開発主義に対し抗う人びとの生活の視点から、日本社会の近代化の歩みや現代社会のあり方を鋭く問う姿勢にあるといえる。

いま、原野が切り開かれた広大な土地に、まるで湖が現われたかのように太陽光パネルが敷き詰められ、次世代エネルギーへの「夢」が語られている。これらの取り組みを否定するつもりはない。しかし、規模の利益を求め「クリーンエネルギー」を大量に消費し続けることが、地域社会に刻み込まれた来歴からの問いかけに答えているようには思えない。「ポスト 3・11」の環境・エネルギー政策を考えるうえで大切にしたい一冊である。

わくわく Kyo2 ライブラリー 読書キャンペーン館長賞決定!

2015年10月から2016年2月まで実施された「わくわく Kyo2 ライブラリー 読書キャンペーン」の館長賞等が決定され、受賞者には表彰状と図書カードが贈られました。今回は、館長賞1名(図書カード3000円分)、優秀賞2名(図書カード1000円分)、わくわくライブラリー賞5名(図書カード500円分)の計8名の方が選ばれました。ご参加くださった皆様、ありがとうございました。

館長賞!

小谷彩華さん

『雑草のはなし』

ちょうど、本に載っている植物が生えはじめたので、探しながら読んでみるのもいいかなと思います。ぜひ読んでほしいです!



優秀賞

金沢星香さん

『大学では教えてくれない大学生のための22の大切なコト』

自分が本をよんで感じたことを率直に書かせていただいた分が選ばれてすごく嬉しいです。



優秀賞

本間美桃子さん

『有頂天家族』

まさかこのような賞をいただくとは思っていませんでした。大変嬉しく思っています。私は、森見登美彦さんの作品が大好きで、今回はその中でも一番オススメの「有頂天家族」についてコメントを書きました。他の作品も面白いものが多く、またほとんどが京都を舞台にした作品であるため、皆さんにもぜひ読んでほしいと思います。



わくわくライブラリー賞

山中晴登さん

『物理のアタマで考えよう』

高校の時から物理が大好きであったので今回物理に関する本についてこのような賞をいただけて本当にうれしく思います。これを期に物理嫌いな人が減り物理を好きな人が増えてくれるのもっとうれしいです。



宅間大二朗さん

『こぶとり爺さん・かちかち山』

卒論の気分転換のような形でしたが、このような賞をいただき有り難いや少し申し訳ないやらです。昔話の本、和洋問わずいっぱいあるので皆さんも読んで下さい!



金子遥さん

『論理的に話す技術』

自分がいただけるとは思っていませんでした。読んだ本と読んだことが館長さんを含めたくさんの人の心に響いてくれたなら嬉しい限りです。今後自分が、この賞をいただいたことを自信にして、様々なジャンルの本にチャレンジしていきたいと思っています。



福永佳奈さん

『いざというとき学校現場で役に立つ食物アナフィラキシー対応ガイドブック』

一人でも多くの方に読んでいただくと紹介した私自身とても嬉しいです。



宇佐光季さん

『ほくには数字が風景に見える』

本を読むのが大好きで、図書館をよく利用しています。今回、えらんでいただいて、とてもうれしいです。これからもたくさん、本を読んでいきたいです。



～講評～

図書館活性化プロジェクトの一環として、昨年度に引き続き今年度も「読書キャンペーン」を行った。本をほとんど読むことのない人のために、まずは本を手にとって読んでほしいということで「わくわくブックチャート」として50字以内の読後アンケートを行った。

さらに本好きな人から周りの人に読書を薦めてほしいということで「読后感想文」募集を行った。今年度は71件の応募があった。昨年度に比べるとやや減ったが、大学生の読書離れが憂慮されている中、多くの応募があったことはうれしい限りである。

525字の升目の中に、本の書評をまとめ上げるのは、必ずしも容易ではない。本の概要やエッセンスを簡潔にまとめながら、読んだ自分の想いを書評を通して伝え、周りの人にその本を薦めるのがこのコーナーである。

薦めるといっても決して押しつけにせず、自然に読みたくなる書評がいい。今回応募の中から図書館職員全員による1次選考を行い11件に絞り、そのなかから3件の館長賞を選んだ。

「雑草のはなし」は語りかける口調で、この本を読んだ自分の驚きや感想を、書評を通じて伝えている。知りたい、読みたいと思わせる書評である。

「大学では教えてくれない大学生のための22の大切なコト」は、概要を簡潔にまとめ、読んだ自分が得たことを、書評を読む人に共有してほしい気持ちが表れている。

「有頂天家族」は少し押しつけ的なところもあるが本の面白さが伝わってくる書評で、確かに読みたくなる書評である。

これ以外のものも本を読んでみたくなる書評が多くあった。ネット社会の中で埋もれてしまいそうな「読書」であるが、たまにはパソコンもケータイも置いて、本を一冊抱えてあたたかい日差しの中で「読書」してみませんか。
(沖花彰 附属図書館長)

新入生のみなさんへ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。
みなさんの大学生活が豊かなものとなるよう、図書館職員一同、心からお祈りしております。

図書館は、正門からのメインストリートに面した4階建ての建物で、1階には学生課があります。学術書・雑誌がメインですが、入門書も多くそろえています。また、小説や絵本、一般雑誌なども置いていますので、まずは一度見に来てください♪



図書館をもっと知りたい！そんなあなたは…

図書館ツアーや 講習会に参加しよう！

【開催日】4月4日(月)～6日(水)、
4月8日(金)～14日(木) [平日のみ]

【時間】12:00～

【集合場所】附属図書館カウンター

【申込方法】希望日時、所属、氏名を明記の上
library@kyokyo-u.ac.jp まで

(当日参加希望の場合は、各回5分前までにカウンターにお申し込み下さい)

※各回20分程度。終了後、本の探し方のコース

(OPAC 図書基礎編、10分)にも参加できます。

◎学部1年生の方は、図書館ツアーや本の探し方については基礎セミナーの授業時間内にも行います。各専攻の図書館ガイダンスの時間をご確認ください。

◎本や論文の探し方などを教える講習会も順次実施していきます。詳しくは、図書館ホームページやポスターなどで！

第26回うたとおはなしの会

【日時】2016年4月30日(土) 10:30～11:30

【場所】附属図書館北館2階 研修セミナー室1

うたとおはなしの会は、今回も春を満喫できるうたやおはなしをたくさんご用意しています。大好評の人形劇は「ともだちほしいなおかみくん」を上演予定です。

えほんのもり (場所：児童書コーナー)

今月は「第26回うたとおはなしの会」を開催しますので、「読み聞かせの会」はおやすみです。

次回は、**5月16日(月) 15:00～**です。

お楽しみに！

4月もあります！学修相談カウンター

春休み中に少しお休みしていた学修相談カウンターですが、3月末から再開しました。理数系の院生がいろいろな質問に対応してくれます。勉強や就職のこと、先輩に相談してみませんか？

【場所】北館2階ラーニングcommons

【時間】16:00～20:00の該当する時間

※4月～5月にかけての年度初めは、不定期実施となります。実施日時は、図書館ホームページやラーニングcommonsなど図書館の掲示でお知らせしますので、最新情報を確認してください。



気軽に
相談してくださいね！

図書館員のつぶやき(14) ～サクラサク～

桜の咲く頃、図書館のガラス張りの西館階段はとてもよい眺めです。がんばって4階まで上がってみてね！

教育資料館 まなびの森ミュージアム

今月の逸品「ハルモニウム」

詳しくはホームページの「今月の逸品」コーナーをご覧ください。展示していますので、ぜひミュージアムへ来てくださいね！



詳しくは…教育資料館 まなびの森ミュージアム
<http://manabinomori.kyokyo-u.ac.jp/manabinomori.html>

今回の執筆者 伊藤 崇達(教育学科 准教授)

ライフキャリアの能力・態度、エンゲージメントと自己調整学習との関係

伊藤 崇達・王 松

京都教育大学紀要. 2015, No.127, pp. 61-76

みなさんは自分の人生をどのくらい思い描けているでしょうか？ 将来にめざす仕事だけでなく、地域、家庭、趣味やレジャーにいたるまで、あなたが担う役割というのを見いだせているでしょうか？ このような「職業キャリア」や「生活キャリア」を包摂した「人の生涯にわたる役割に関連した実践の道筋・進路」のことを「ライフキャリア (life career)」といいます(河崎, 2010)。現在、日本のあらゆる学校段階、発達期においてキャリア教育が盛んにすすめられています、まさに子どもたち一人ひとりのライフキャリアの発達を支える実践が求められているといえます。

ところで、このライフキャリアの能力や態度は、心理学的にはどのように測定・評価ができるのでしょうか。自分の将来に展望があることでしょうか、仕事と生活のバランスがとれていることでしょうか？あるいは、意思決定をするスキルがあることでしょうか、自分のことをポジティブに理解していることでしょうか？本研究では、先行研究の尺度(河崎, 2010)を用い、6つの側面から検証を試みていますので、ご関心がおありの方はご覧ください。

己の人生を力強く切り拓いていくためには、自ら積極的に学ぼうとする姿勢(エンゲージメント)や生涯学び続ける力が大切になってくるはずで。筆者の専門とする教育心理学・学習心理学では、自己調整学習 (self-regulated learning) という研究領域で検証がなされてきています。自己調整学習研究では、キャリア発達の視点に基づく検討が十分になされていない現状があり、一方で、キャリアに関する研究においても、人がいかに学ぶかに関する研究が不足しているという指摘があります。本研究は、両者を接続しようとする試みでもあり、ライフキャリアを支えている学習の心理的要素は何かという実践上の示唆とともにご覧いただけますと幸いです。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 127 号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/>にも公開されています。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2016年4月							2016年5月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	1	2	3	4	5	6	7
3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14
10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21
17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28
24	25	26	27	28	29	30	29	30	31				

4/12 前期授業開始

●京都教育大学附属図書館ホームページ
<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>



●携帯版図書館ホームページ (QRコード) <http://tosh02.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>

京教図書館 News No.187(2016年4月号)
発行日:平成28年4月1日
編集発行:京都教育大学附属図書館
問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp